

羊ヶ丘養護園安全委員会だより

羊ヶ丘養護園 VOL. 22
平成29年4月11日 内山・辻

★平成28年度最終の第34回安全委員会を3月28日に開催★

今回の定例会議では平成29年1月5日から平成29年3月10日までに起きた7件のケースについて報告しました。あわせて平成28年度中に定例会議に報告した暴力件数は現時点で85件、内72件(85%)が小学生による日常の些細なトラブルが原因で発生した暴力によるものでしたが、怪我等の発生はなく重度な暴力がなかったことをあわせて報告しました。

～今回の定例安全委員会でうけたSV～

今回報告したケースでは子ども同士のコミュニケーション不足から、すれ違いや誤解が生じ感情のコントロールができずに暴力を振るってしまったというケースが多くありましたが、このような状況に対し外部委員の方から次の助言を頂きました。

外部委員の小学校の校長先生からは、学校内でも同様にコミュニケーションのすれ違いなどからトラブルが発生しがちで、さらに、子ども達の生活の中に、大人が間くと暴言だと思ふ言葉遣いが普通に交わされており、子どもが「暴言を暴言として感じていない」状況があることが課題になっているとの意見を頂きました。

また、他の意見では、トラブル解決時に謝罪をすればすべてが終わってしまわないように、子ども達に謝らせるだけでなく、相手がどう思ったかを考えさせて暴言や暴力を受けた子の気持ちを一緒に考えていくことも大切ではと助言をうけました。

当園からは「暴言も暴力であり使ってはいけない」という意識を日常生活の中に浸透させていくには、大変時間が掛かるが、へこたれずに指導を継続していること、暴力の被害を受けた子どもの気持ちを解決の場で直接、伝えさせたり、職員が代弁して加害児に考えさせていること、暴力を起ささないための解決方法について考えるなどして学ばせていること等の当園の対応を伝えた。そして、三浦園長からは、「日常生活の中で些細なことが原因でトラブルが発生しているが、暴力への対応だけでなく一方で、子どもたちの中に、「いいよ!」と相手を許す寛容さを育てていく教育も大切だ」と話されました。今後、私たち職員がそのことを強化していかなければと感じました。

前回、定例会議で報告した刃物に向けて他児を脅したケースについて施設内厳重注意を行った後は、なくなっていることも報告し、適切に処理されていると評価を頂きました。そして、山岸委員長からは、「トラブルは未だ続いているが、成長が見られている子どもも多くなったと感じている。例えば、イライラしトラブルを起こしそうになると自らクールダウンをしたり、自分から職員に解決をしないと訴えてくるようになってきていることが成長の証だと思う。それは、これまで羊ヶ丘の職員が繰り返して対応してきたことが、その子の中で積み重なり、暴力回避の自信へと繋がっている成果だと思います」と評価を受け、とても嬉しかったです。

記：安全委員会課 小野

初めて安全委員会に陪席させていただきました。定例の安全委員会の中では、暴言や暴力の報告ケースのほかにも職員の子供達への関わり方について話して自分自身もこれから子供達と関わる上で勉強になる定例安全委員会でした。安全委員会のことをもっと理解し子供達と生活を共にしていきたいと改めて感じることができました。

保育士 内山大輔

今回、安全委員会に陪席させて頂きありがとうございました。地域小規模：白樺の子どもたちは暴言や暴力がない環境で毎日落ち着いて生活することができています。安全委員会対応の経験がない私にとって、今回委員の方からさまざまなお話やご意見を聴かせていただき大変貴重な学びが沢山ありました。今後も継続して子どもたちが落ち着いて生活できる環境を守っていききたいと思います。

保育士 辻佑里奈